

令和7年4月1日

令和7年度 学校経営計画

練馬区立南が丘中学校
校長 宮田 健史

1 教育目標

練馬区立南が丘中学校は新しい時代を切り拓く心豊かでたくましい人間を育てる。そのためには、知性を磨き個性を伸ばす教育を推進することが必要である。学校は子供のためにある。公立学校としての責務を果たすために、知・徳・体のバランスのとれた質の高い教育を実践し心豊かでたくましい人間を育てる。

教 育 目 標

- | |
|--|
| (知) 進んで学び、深く考え積極的に行動する人
(徳) 思いやりの心を持ち、互いに協力する人
(体) 心身ともに健康で創造力のある人 |
|--|

2 基本方針

教育基本法、学校教育法における目標や練馬区「第3次 みどりの風吹くまちビジョン」の「子どもたちの笑顔輝くまち」の施策、 および「練馬区教育・子育て大綱」の「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備える子どもたちの育成」を踏まえ、基本方針を定める。

学びにあふれ 自律した社会人への基礎を築ける学校

生徒一人一人が「明日も学校に行きたい」「友達や先生と一緒に学びたい」と感じられ、将来のあり方や生き方を創造でき、それに向け社会人として自律できる力をつける学校を目指す。

この学校となるには、「生きる力」の育成が大切である。「生きる力」とは、「変化し続ける社会に対応するための能力 —— 即ち生涯にわたり学び続けるために ①学ぶ楽しさを体験し理解している ②基礎的基本的な知識と技能のもと、的確な思考力・判断力・表現力を有している ③多様性を認め他者と協働し、自律した社会の一員となるチームワークや優しさと思いやりがある —— などである。これらを生徒が身に付けられるように多種多様な働きかけを根気強く続け、自己実現を図ろうと行動できる人間の育成を目指して、教育活動を進める。

さらに、保護者・地域の力を積極的に学校教育活動に取り入れながら、生徒の社会性を培うと共に、開かれた学校として地域と共にある学校を目指す。

3 目指す学校像・生徒像・教職員像

- | | |
|------|--|
| 学校像 | 「学校にかかわる全ての人が自己実現できる学校」 |
| 生徒像 | 「自分で考え行動し、実践に責任をもてる生徒」 |
| 教職員像 | 「教育公務員としての自覚を持ち、絶えず研修・研鑽に努める教職員」
「学びの楽しさと知識や技術を具体的に分かりやすく活用できるよう伝える教職員」 |

4 経営目標

上記の「学校教育目標」「基本方針」「目指す学校像・生徒像・教職員像」を達成するために、中期経営目標と今年度の経営目標を定める。

(1) 中期経営目標

①学校にかかわる全ての人が自己実現できる学校を創造する。

ア) キャリア教育を学校教育の中心に据え、学校に関わる全ての人がキャリア(=役割)を通し、学びや変化する楽しさを感じ、生涯に渡り学び続けていく意欲や姿勢を育て、生き方や将来のあり方を考え学べる学校

イ) 教職員が協力し合い職務に取り組むために、チームとしてワークライフバランスを保ち、全員のウェルビーイングを高めていく学校。

ウ) 生徒、保護者、地域の方々が成長できるために、教職員が学ぶ楽しさ姿勢を示す学校。

②活動のねらい・目的を明確にし、その達成のため活動する。

ア) 活動の目的・ねらいを明確にして取り組む。次にPDCAサイクルでは、特に、A(善後策をたてる)を意識し、次年度以降の企画・立案が円滑に進むようにする。

イ) 新しいこと・やり方・考え方を楽しみ、常に学ぶ姿勢を大切にする。

ウ) できない理由を探すのではなく、できる方法をチームで考える。

③本校の学びのスタイル、特に総合的な学習の時間、特別活動においては3年間を通した学びを構築する。

ア) 授業は情報伝達型ではなく、課題への意欲をもたせたり対話的で考えを深めさせたりする時間を計画的に設けた授業を行う。更に、指導と評価が一体化する授業への取組を進める。

イ) 生活指導力を向上する。個人、組織で発達支持的・課題予防的生活指導の理解を進め、実践する。そして、チーム学校をより強固にするとともに・外部機関との有機的な連携を進める。

ウ) キャリア教育を研究テーマとして、特に総合的な学習の時間、特別活動の3年間を通した学びの系統化を図る。系統化の構築にあたり、各活動の目的の達成を、生徒の変容を科学的な根拠に基づいて把握することに努め、指導と評価が一体化された教育活動にしていく。

(2) 学校教育目標を達成するための経営目標

	今年度の具体的な活動方針	関連する「学校評価アンケートの問い」と「R6 年度肯定的意見の割合(%)」
進んで学び、深く考え積極的に行動する人	「聴く」姿勢を大切にする。 ①学びの基礎となる聞く力・話す力を育てるために、まず「聴く」姿勢を確実に身に付ける。身体的な姿勢だけでなく、意欲的に理解しようと聴く心理的な姿勢も重視する。 ②上級生の姿勢から下級生が学ぶことは、本校の伝統である。行事等の機会を捉え、学びの機会を創る。同様に、生徒に関わる際は、教員が聞く姿勢——カウンセリングマインド——を実践する。	読書活動・話し合い活動・発表活動など言語活動を重視した授業が進められている。【生徒:88、保護者:83】 一人一人の生徒を大切に、個に応じた学習指導(はたらきかけ)がされている。【生:81、保:76】
	「課題解決能力」を育成する。 ①授業等では、工夫された発問や体験活動から課題を見付け、自ら学び考え、過程や結果を自分の言葉で表現・伝える力を培う。 ②授業等では、生徒の考える時間を十分に確保し、自分の考えを自分の言葉で表現し相手に確実に伝える学習活動を意図的・計画的に行い、対話的・探求的な学習方法を設けながら課題解決能力を育成する。	読書活動・話し合い活動・発表活動など言語活動を重視した授業が進められている。【生:88、保:83】

	今年度の具体的な活動方針	関連する「学校評価アンケートの問い」と「R6 度肯定的意見の割合(%)」
進んで学び、深く考え積極的に行動する人	「分かった・できた」を実感できる授業を実践する。 ①「できた・分かった」を実感できる授業実践を推進する。 ②教員の授業力を向上させるため、小中相互で学びを深化させる。 ③「15歳の生徒像」を実現させるために、小中連携をさらに進める。	生徒の学力、能力、努力を適切に評価している。 【生：86、保：79】 授業は1時間の「ねらい」が明確になっている。 【生：78、保：73】 一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習指導がされている。 【生：81、保：76】
	タブレットPCの活用能力の向上を図る。 ①生徒が筆記用具として使えるように、全教員がタブレットPCを活用した授業を行う。	生徒用タブレットなどICT機器を活用した授業が進められている。 【生：90、保：83】
思いやりの心をもち、互いに協力する人	あいさつを基本にし、豊かな人間性の育成を図る。 ①あいさつを基本とし、生徒相互・教員相互・生徒と教員間における適切な言語環境をつくる。 ②あいさつを通して自他を認め合う心を培う。 ③教職員が最良の言語環境の見本であることを意識し、指導にあたる。	生徒へ「あじみこし」(あ：挨拶、じ：時間、み：身だしなみ、こ：言葉遣い、し：姿勢)の大切さを理解できるような指導が行われている。 【生：88、保：89】
	道徳教育を確実に実践し、人間尊重の理念に基づいた指導を進める。 ①教育活動全般において道徳的判断力を育成し、道徳的実践力を醸成する。 ②教職員や保護者においては、体罰(力・言葉)や性暴力等の力(ハラスメント)の行使は絶対に見逃さず、またそれらができない環境をつくる。 ③生徒には「いじめは許さない」「いじめをしない・させない」を合い言葉に、いじめの早期発見・早期解決に努める。また、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を意識して、全ての教育活動を進める。	生徒が学校生活の決まりを守れるよう適切に指導している。 【生：88、保：89】 いじめ未然防止のための生活指導や教育相談、環境整備が行われている。 【生：83、保：83】
	特別支援教育を確実に推進する ①特別支援教育への理解をより一層深め、生徒一人一人の実態を把握し、個別最適な指導を進める。 ②生徒の実態を把握するために、教員と生徒がともに関わり合い・学び合い・高め合うことのできる温かみのある人間関係と信頼関係を築く。 ③特別支援教育コーディネーター・不登校対策推進教員を中心として、発達に課題があったり学校に足が向きにくかったりしている生徒には、組織的な体制を構築し、生徒の学びが進むよう支援する。	生徒一人一人が大切にされ、生徒の気持ちに寄り添った対応が行われている。 【生：82、保：75】 特別支援教育に力を入れ、交流や共同学習を進めている。 【生：85、保：82】
心身ともに健康で創造力のある人	心身の健康と体力の向上を推進する。 ② 健康でたくましい心身を作るために、保健体育科の授業の充実を図る。 ②生徒が健康的な学校生活を送るためには、電子デバイスの利用方法や十分な睡眠時間の確保も重要である。保護者や生徒への安全な使用についての理解を深める働きかけをする。	保健体育科授業を中心に、十分な運動量を確保する取組が進められている。 【生：94、保：84】
	食育を推進する。 ①食育を一層推進させ、保護者・地域の食への関心を高め家庭と連携を図り、正しい健康的な生活を自ら実現できるように働きかける。 ②生徒には、基本的な生活リズムを確立させ、バランスのとれた食事、十分な睡眠をとれる指導を工夫する。	給食の献立は工夫され、栄養のバランスが良く、安全である。 【生：90、保：89】

	今年度の具体的な活動方針	関連する「学校評価アンケートの問い」と「R6 度肯定的意見の割合(%)」
心身ともに健康で創造力のある人	多様な年齢や社会人との関わりの場を意図的に設ける。 ①総合的な学習の時間や特別活動などで、外部人材を意図的計画的に招く。 ②生徒会活動や学校行事、部活動などの異年齢が関わり合う活動を設け、多様性を体験的に学ばせ生徒の心の健全な成長を促す。	将来の生き方を考えさせたり、体験させたりするキャリア教育が行われている。 【生：88、保：78】 三者面談・キャリアパスポート・進路面談などを通じて家庭と連携し、適切な進路指導が行われている。 【生：88、保：83】 運動会や文化発表会などの学校行事が充実しており、生徒が中心となって活動している。 【生：92、保：94】 生徒会・委員会活動などの生徒の主体的活動を促す教育が行われている。 【生：92、保：90】 部活動の指導は適切に運営がされている。 【生：85、保：75】
開かれた学校づくり	学校・家庭・地域と協働するために、積極的に情報発信をする。 ①学校・家庭・地域が協力し合うために、学校は目指す生徒像を明確にし、学校ホームページや学校便り等を活用して学校の様子を積極的に丁寧に情報発信する。 ②保護者会や三者面談、学校評議員会等を通して、家庭や地域の協力を促し、生徒を共に育てられるように価値観を共有しあう。 ③地域に愛され家庭に支えられる学校を創造する。	学校は保護者・地域に対して、学校の教育内容等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。 【保：86】 学校は保護者・地域と連携しながら学校を運営しようとしている。 【保：88】
	外部人材を活用する ①地域や外部の人材を積極的に学校教育に生かすために、外部人材の効果的な活用と人材の発掘、環境整備をさらに進める。 ②社会人との触れ合いを通して、学びへの意欲を高めると共に学び続ける意義を感じさせ、「確かな学力・生きる力」の育成につなげる。	保護者や地域の方々には学校行事や授業公開に参加しやすい。 【生：78、保：89】 将来の生き方を考えさせたり、体験させたりするキャリア教育が行われている。 【生：88、保：78】

(3) 目標達成に向けての教職員の意識・姿勢

		関連する「学校評価アンケートの 問い」と「肯定的意見の割合(%)」
「あ・じ・み・こ・し」の励行	①あいさつ： 気持ちよい挨拶を生徒はもとより、同僚、学校で働いている方、来校者・保護者と交わす。 ②時間・時刻： 授業の開始時刻、終了時刻だけでなく、会議の時刻や時間、部活動や委員会の時間、生徒を指導する時間など、全てで「時」を意識して職務にあたる。 ③身だしなみ： 教師として授業や活動の場にふさわしい服装をする。校外においては、教育公務員としての身だしなみや立場（身分）を踏まえた行動をする。 ④言葉遣い・心づかい： 授業や生徒との関わりだけでなく、保護者・地域・業者や外部の方々との言葉遣いも正しくする。生徒への声かけは、その存在や実際の行動、できたことを認める声かけをする。指導は、どうしたらできるようになるか一歩成長できるかを考えて、言葉がけをする。 ⑤姿勢（身体、意識の両面）： 授業での指導や生徒との普段のやりとりなど、生徒との関わり全てが生徒に見られている。教職員の所作・言葉遣いは、生徒の見本である。学ぶ姿勢を生徒に見せるためにも、教職員も新しいこと未知なことにチャレンジする。	電話や学校を訪問した際の対応は親切で好感がもてる。 【保：92】
Professionalとしての意識と行動	①誰でもができない意図的な活動（授業や集団生活、特別活動などの多様な活動、繰り返し関わる＝教育）を行うプロが私たちである。このプロ意識を常にもち職務にあたる。 ②チーム学校（チーム南が丘）の意識を常にもつ。 i) 教職員を含め一緒に働く方々と、互いを尊重しあう人間関係を創る。心に余裕と笑顔をもって指導を行える品位あふれる教員を目指す。 ii) 役割・使命感をもって常に職務にあたり、職層・担当に応じた職責を果たす。 iii) 相互信頼・相互依存できる集団 自分と仕事には厳しく、協働しあえるプロ集団となる。「自分で抱える」「自分だけでやろう」とはせず、組織・仲間意識を持つ。 iv) 学年・分掌などの組織で共通理解を十分に図る。 v) 仲間から学ぶ 「聴く（＝教えを請う）」姿勢を第一にし、どんな時でも真摯に学ぶ姿勢と感謝の気持ちを持ち、それらを表現し合う。 ③自らの能力向上を図る。 i) 幅広い教養と深い専門知識の両立を目指すために、常に研修を進める。 ii) 自分の考えや意見を大切にする（持ち続ける）だけでなく、成長、進化するために、自分の「正しい」を脇に置き、これまでと異なる物事、順序など受け入れる柔軟さを持ち、学びをシンカ（進化、深化、新化、真価）し続ける。	生徒は学校に行くことが楽しいと感じている。 【生：80、保：82】 生徒は安心して学校に通うことができている。 【生：89、保：86】 一人一人の生徒を大切にしたい、個に応じた学習指導がされている。 【生：81、保：75】
保護者・地域・外部との協働	①三者面談は学校への信頼をより強くできる機会と捉え、生徒の情報交換を密にし、生徒の変容（＝成長）を伝え、さらに成長を目指す方法や対策を、同歩調で進められるようにする。 ②保護者会や学級懇談会などは、参加したことで何らかのメリット（来て良かった）を感じさせる企画を用意する。 ③PTA役員会や学校評議員会を中心に、教育活動への理解と課題解決に向けての理解と支援をお願いする。 ④開かれた学校となるためにも、学校の活動を積極的に学校HPなどを活用し発信する。	三者面談・キャリアパスポート・進路面談などを通じて家庭と連携し、適切な進路指導が行われている。 【生：88、保：83】 保護者・地域に対して、教育内容等を学校だよりやホームページ等で積極的に発信している。 【保：86】 保護者・地域の意見を聞き、連携しながら学校を運営しようとしている。【保：87】

※ 到達目標の目安として、関連する学校評価アンケート肯定的な評価の割合が、「65%以下の項目は15%以上」、「75%以上の項目は10%以上」、「それ以外は5%以上」の向上を目指す。

なお最終的な到達目標は、肯定的評価が生徒95%以上・保護者90%以上で、その数値が2力年間以上続くものとする。